

2013 年 (平成 25 年)

新春号

[第 22 号]

発行 東京鉄構工業協同組合  
 〒 104 東京都中央区八丁堀 3-9-5 KSビル 6階  
 - 0032 TEL : 03 (5566) 1595  
 FAX : 03 (5566) 1597

Tokyo  
Steel-rib  
Fabricating  
Association

Report

東構協

<http://www.tsfa.jp/>

あいさつを述べる飯田理事長 (於・13年新年賀詞交歓会)



景気回復を祈り乾杯する参加者 (於・13年新年賀詞交歓会)



## 「行動・継続・希望」で飛躍の2013年に

理事長 飯田 歳樹



われわれ東京鉄構工業協同組合も新春を迎え、心新たな熱意で邁進する所存でありますので、昨年同様変わらぬご支援とご協力を心よりお願い致します。

大惨事となった東日本大震災から、今年で2年を迎えます。被災範囲が広域に及びましたが、各地で今なお復旧作業が関係者の手によって懸命に取り組まれています。ただ、復興の遅れが目立ち、また福島第一原発事故による汚染地域の除染作業に関しても先が見えない状況です。

たとえ、先の見えない状況であっても、そこで「人」が明日を信じて生きている以上、それぞれの立場で努力す

るのも「人」でもあり、それがまた組織であり、社会となります。

今年こそ、「行動と継続、そして希望」の理念に従い、重い扉をわれわれの手で明日に向かって、こじ開けるための秘策を組合員全員で考えたいと思います。

「行動」とは目標を定めて自らが実践することです。結果的に失敗に終わるかも知れませんが、それを恐れて検討を重ねてそこでじっと動かないよりも、即時に行動を起こしたほうがよいのに決まっています。多少のリスクを覚悟で「駄目でもともと。不都合が生じれば撤退すればいい」の気概を持ちましょう。何ごとも、もたもたしていると先を越されます。

「継続」とは文字通り、引き継いでそれを続けることです。組織の運命を左右することがあるかも知れませんが、先人たちの熱い心を次世代に伝えていく努力を怠ってはいけません。組合員の執念と気迫で乗り越えていきましょう。

「希望」とは明るい未来に向かう姿勢です。組合活動が組合員の心の支えになるように、失敗を恐れず、それぞれが満足する、そして笑顔で明日に立ち向かう組織の構築に皆で努力しましょう。

東構協は、日本一の組合であることは間違いありません。その自信と誇りを持って今年一年を頑張っていきたいと思います。(飯田製作所社長)

## 組合理事役員 年頭のあいさつ

### 奈良紀行日誌



理事  
相談役  
池田 英敏

毎年、青連協OB会の旅行が開催されているが、今年度は近畿支部担当ということで、奈良方面に2泊3日の日程に決まり、北は北海道から西は愛媛県の同志とご夫人方20名が参加した。昨年度は東日本大震災により開催を見送ったため、今回で14回目となる。

当日は、まんじりともしない前夜に少々寝不足であったが、何年かぶりに出会う友人と旧交を温めたいというはしゃいだ気持ちでJR京都駅八条口に急いだ。中には大震災でご苦労された友人もあり、それぞれと握手し、肩を叩き合っここに集える喜びを分かち合った。

京都駅を後にしてバスの旅が始まる。バスは三十三間堂の脇道を通り、清水寺を右手に見て平安神宮、八坂神社を抜け、比叡山延暦寺に向かう。車中は、近況報告やら世間話に花を咲かせ、ビールを飲む和気あいあいとした賑やかな雰囲気包まれていた。

折からの雨で参道では傘をさし、滑る足元を気にしながら、だらだら坂をのぼり、両側の延暦寺にゆかりのある人たちの掲示にも目を走らせつつ本堂へと向かう。国宝根本中堂だけに荘厳なたたずまいが、小雨に濡れる静寂な巨木とマッチし、歴史の重みを感じた。

一泊目は、琵琶湖畔の雄琴温泉。流れる雲を映す湖面を見ながら、ゆった

りとくつろぐ。その日の疲れをビールで癒し、健康で参加できる幸福を噛みしめた。天に感謝せずにいられない心境であった。

翌日の石山寺ではまだ数週間早いのか、もみじが十分に紅葉していなかったが、紫式部の源氏物語の原文に出会い、情緒豊かな恋しい人への思いを綴った文才に感動する。駆け足で平城京を見学し、奈良ホテルに一泊。3日目は、正倉院展、東大寺大仏殿を見学する。そこでは表情豊かな大仏と悲哀が滲み出ている像を目にしたほか、故夏目雅子の面影に似た仏像などを発見した。

今回、万葉の世界ゆかりの地を観光できなかったのは心残りだが、こうして奈良への楽しい2泊3日の旅は終わった。ほんとうにありがとう。たいへん思い出深い旅であった。次年度は関東支部のメンバーが幹事である。皆様健康で参加できることを心より祈念している。(池田鉄工社長)

### 心の叫びと優美な空想



副理事長  
総務・広報委員長  
松田 清明

「駒とめて・袖うちはらう・かげもなし・佐野のわたりの・雪の夕ぐれ」(藤原定家 新古今和歌集 671)。

学生時代にこの歌に出会い感動したものです。その後、「苦しくも・降り来る雨か・神の崎・狭野のわたりに・家もあらなくに」(長奥麻呂 万葉集 265) という歌を斎藤茂吉著の『万葉秀歌』で知りました。どちらも良い歌ですね。しかし、同書の中で茂吉が定家の上記の歌を辛口に批判していました。そうです、定家は実際に現地その情景を見たわけではなく、奥麻呂の歌を踏まえ、たぶん歌会の席上、暖か

いところで詠んだものなのでしょう。そしてこの時代、古歌を下敷きにする本歌取りが少なからずあったようです。そこへいくと、奥麻呂は実地を旅して詠歌しているので、人の心に訴えるような響きがあります。

万葉の時代は感情のおもむくまま自由に歌を詠んでおり、新古今の時代は洗練された技巧的な歌がもてはやされていたようです。茂吉の批判はさておき、定家の空想から醸し出された情景もまた、すばらしいと思います。まるで墨絵の静寂な世界を彷彿させられます。わたしは一時、定家の歌を嫌いになりましたが、時を経るうちに、良いものをまねして自分なりにまた良いものを作るということ、少しも悪いことではないと思うようになりました。今はどちらの歌も大好きです。

現代は、技術革新が急ピッチで進んでいます。また、人の心も多様になり、とてついでいくことができません。そこで、奥麻呂と定家の例のごとく、他人の考えや生活様式等を理解し、尊重して、良いこと、良いものをマネしてみるというのはどうでしょうか。その中から自分なりの良いこと、良いものが生まれてくるかもしれません。

(松田鋼業社長)

### 相手を、明日を信じられる業界に



副理事長  
共済事業委員長  
武田 忠義

日頃、新聞やテレビのニュース番組をみていて、「人や国同士がどうして仲良くなれないのか」とため息をつくことが多くなりました。

本来、互いの権利や主張、主義などが異なることで争いが生じますが、人間は欲深く、また感情的な厄介な生き物であることから、認め合って理解を

深めて前向きに話をするという単純な行為さえできずにいることが少なくありません。それが大きなトラブルに発展することになります。これが国家間となれば国益や威信、政治的思惑などが絡み、当然のことながらなかなか解決に至らないのが現実です。

中国と尖閣諸島の領有権をめぐる問題では、とくに昨年中国国内の暴徒化したデモなどが相次ぎ、自動車などの輸出産業のほか、国内の観光産業など経済面でも大きなダメージを与えました。今も毎日のように接続水域まで接近、あるいは領海侵犯を繰り返す中国船の報道に接するたび、これがやがて大きな国家間の衝突という事態を招ききっかけにならないでほしいと願うばかりです。

アルジェリアの石油精製基地では、テロリストによる武装襲撃で日本企業の社員が犠牲となりました。犠牲者への悲しみやテロリストに対する国の考え方などが大きく報道されていますが、尖閣諸島も今回のアルジェリアの事件にしても、「資源」に対する国益の確保と戦略が本音として見え隠れします。

話をもとに戻しましょう。大きなトラブルになる前に、それを未然に防ぎ双方にメリットのある解決法を模索すれば、問題を回避することができるのではないでしょうか。そのためにはまず、話し合いが必要で、お互いがテーブルにつくことから始まります。認め合って理解するのはなかなか困難かも知れませんが、それが互いの利益に繋がるのであれば、そうしたほうがよい

のに決まっています。われわれの業界も同じことが言えます。疑心暗鬼を払拭して、相手を、明日を信じられる業界にしていきたいと思います。

(叶産業相談役)

## 鉄骨造について思うこと



副理事長  
教育・技術委員長

中川内 信吉

現在、自分は普通のマンションに住んでいるが、希望としては庭があって犬が飼え、鹿脅しの竹が「カッコン」と音を立てるような木造の和風住宅で暮らしたいと思っている。

弊社は小さなMグレードなので、大きな建設工事のことは分からないが、自分の思った鉄骨について書いてみる。

S造、SRC造のメリットについては、

- ・木造に比べ、耐震性に優れている—認定工場で作した物件ならば、倒壊の危険がないので安心して暮らせる。
- ・木造に比べ、耐火性に優れている—近隣への類焼を軽減できる。
- ・建築工期が短い—早く営業ができ、資金の回収につながる。
- ・住宅の場合にはリフォームしやすい—家族構成の変化に合わせて間取りの大幅変更にも対応できる。
- ・建物を解体した場合、鉄骨は再資源となる—スクラップ代が戻ってくる。

では、デメリットはどうかというと、

- ・以前住んでいたS造は上階の生活音が響いた—対策を考えられるのでは？
- ・比較してはいないが、RC造よりも建設費が高いのではないかと？

以上、自分なりの勝手な解釈だが、皆さんもご意見があれば提案していただきたい。そこから新しい発想が生まれ、鉄骨の良さを伝えることができるのではないのでしょうか。

(中川鐵工所社長)

## ビールに「めんたい味」を!



副理事長  
運営委員長

鈴木 貴久

「うまい棒」をご存じでしょうか。(株)やおきんが79年から販売する10円のロングセラー駄菓子です。コンビニの最下段のラックにあり、子供達が買いやすいよう陳列されています。

数年前、駄菓子なのにラッピングバスで大々的に広告したのは驚きでしたが、年間総売り上げ本数はなんと4億2千万本だそうです。それなら納得できますよね。大手コンビニやスーパーマーケットで取り扱うからには10円の駄菓子であってもしっかりと品質管理をしているに違いありません。様々なフレーバーがあり、企業とコラボレーションしてノベルティーとして無料配布するなど販売促進の企業努力はあるものの、本体は特別魅力

## ガイドライン説明会を開催

86名参集、講師は青野弘毅氏

2月21日、東京都江東区の東京YMCA東陽町ウェルネスセンターで講師に青野弘毅・那須ストラクチャー工業工場長付技術担当を招き「建築構造

用鋼材の品質証明ガイドライン」説明会を開催。会場には組合員企業から86名が参集し、従来のミルシート方式との違いやガイドライン方式による書類の書き方などを学んだほか、運用の際の留意点の説明や受講者との質疑応答が行われた。



もないありふれた普通のスナック菓子なんです。

駄菓子屋さんは、戦後の未亡人が軒先で安い投資で誰でもできることから店開きするケースが多かったのですが、未亡人もいなくなり、衛生面や薄利であることから次第に衰退していき、当時の駄菓子達はほぼ販路を断たれ激減していきました。

「うまい棒」は原材料費の変動に対して、長さを変えることで調整しています。誰もたかが10円の駄菓子の内容量まで文句を言わないでしょう。無論、内容量が減ればそれをちゃんと表示はしています。

ここにしたたかな戦略があります。卸値は7円50銭。販売価格はずっと10円のままにこだわり、利益確保できるしくみが出来上がっているのです。10円だからこそ子供達は遠足のおやつに必ず予算の調整用として数本選択しますよね。こうしてコンビニ時代の到来を背景に販売量を増やし続けました。これはまさしく企業努力の結晶と言えます。

逆境に打ち勝つ優れた経営判断があったのは確かです。大手製菓会社でもなく、特別競争力のある商品でもないのにアイデアを練りに練った結果でしょう。

本来消滅するはずの立ち位置にいたのに、勝ち組に入り、今や国民的な駄菓子です。たかがですが、されど。

市場環境を理由に下を向いてちゃダメだよなあ、と思う今日この頃。

しっかりしないと、オレ……。

(那須ストラクチャー工業社長)

## 2013 を迎えて



副理事長  
青年経営者委員会  
幹事長  
吉岡 晋吾

2013年元旦、初詣に行き、賽銭を投げ込み、今年の抱負や希望を願って帰路に着いた。そこまでは前年と同様だが、賽銭は1円・5円・10円・50円・100円・500円とすべての硬貨を入れてみた。神様によって硬貨の好き嫌いがあると困るからである。しかし、いつまでも神様に頼ってばかりはいられないので、今年は自分の心と体のケアをすることにした。今まではまだまだ若いと思ってがむしゃらに行動してきたが、これからは心身ともに健康できないとこの時期を乗り切ることができないと感じている。

今年の正月休みは例年より少々長めだったのでゆっくり休養を取れたが、お雑煮の食べ過ぎで体重が4キロも増えてしまいショック！普段は車で移動することが多く、歩くことは少ない。また、付き合いで外食、外飲が多い一方で、運動といえば月に一度、草野球をするぐらいだ。その代償として通風になってしまい、ときたま来る激痛と付き合いながらの生活を余儀なくされている。

それではいけないと一念発起、ジムに行く決心をした。先日、妻と一緒に見学に行ったが、驚いたことに意外と人が多く、特に自分の世代よりも年配

の人たちが多いのに驚かされた。水泳、ランニング、ヨガ、エアロビクス、ゴルフレッスンと多種多様のコースがあり、自分に合ったトレーニングをできるようにメニューを作ってくれるそう。日々の生活は、大変忙しいけど、できるだけ時間を有効利用して健康を維持していきたいと思っている。

仕事面では、今年は景気が上向き傾向になってくるといわれているので、少し余裕を持った営業活動をし、与信管理を慎重にし、できるだけリスクを減らし、さらには利益確保を追求するべく努力をしていきたい。断る勇気を持つことが大切だ。また、今まで以上に、同業者との情報交換を密にして信頼関係を構築できる仲間をさらに増やし、風通しのよい業界を作っていきたいと思う。

ところで話は変わるが、最近ちょっと気になることは、ボーイング787の機体の一部に使用されている炭素繊維の存在である。軽くて強いイメージがあり、鉄と比較すると比重で1/4、比強度で10倍、比弾性率が7倍ある。その他にも、耐磨耗性、耐熱性、熱伸縮性、耐酸性、電気伝導性に優れている。航空・自動車・船舶業界等に進出し、実績を上げてきているのは事実で、今後の鉄鋼業界にとって脅威になり得るのでしょうか。短所としては、製造コストの高さ、加工の難しさ、リサイクルの難しさが挙げられ、価格も鉄の約10倍と高価なため、今現在ではそれほど脅威にはならないと思いますが、将来的には無視できない存在になるに違いないだろう。

### 東構協の試験準備講習会

—製作管理技術者に計165名受講—

東京鉄構工業協同組合は9月22日、東京都千代田区の総評会館で「1・2級鉄骨製作管理技術者」受

験準備講習会を開催。東京をはじめ関東近県のファブなどから1級コース114名、2級コース51名の計165名が受講した。

1級コースは羽石良一・さくら設計事務所代表が、2級コースは嶋徹・

戸田建設建築工事技術部技術2課課長が講師を務め、過去の出題傾向を確認しながら学習すべきポイントや問題の解き方を解説。講義終了後には模擬試験が行われ、受講者らの日頃の勉強の成果が試された。

最後に、今年はどうな一年になるのかまだ分からないけれど、自分がやってきたことを信じ、そしてほどほどの我慢と前向きな姿勢で進んで行きたいと思う。景気の動向に左右されずに自分達のスタンスで切磋琢磨し、日々勉強し、また、進化していきたい。今年一年よろしくお願いいたします。

(吉岡工業専務)

## 人生五十年



理事  
M グレード部長  
谷村 忠行

「人間五十年、下天のうちを比ぶれば、夢幻の如くなり。ひとたび生を得て滅せぬもののあるべきか」。永禄3年(1560年)、桶狭間の戦いに臨み、今川軍に対し数の上で圧倒的に不利な立場にあった織田信長が出陣に際して舞ったという幸若舞「敦盛」の一節。「所詮、人生は50年しかない。人は必ず死ぬのだから決死の覚悟で思い切ってやってみるぞ」という戦国時代を走り抜けた信長の勇ましい思いが込められているように思われる。

変わって時は平成25年(2013年)。政治空白の20年、日本経済は生きる活路を求めてもがいている。かく言うわたしも必死の思いで頑張ってきた。今から6年前、当時36歳のわたしは、社員50人の会社の代表取締役となる。以来、「不易流行」の大義名分のもと、ただがむしゃらに走ってきた。

昨年は本社工場を移転し、船橋工場に集約。そこに至る過程でも①選別受注②固定費削減③家賃収益の確保・・・等々により資産価値のない固定資産はすべて処分し、外部留保を内部留保として会社に現金を入れ、流動資産を1億円以上確保した。潰れない会社づくり。これがすべてである。代表とし

ては当然、会社を守ることもあるが、社員満足度の観点からも安心して働ける会社にしなければ、従業員も安心して生活ができない。支払い手形を出さない。金払いを良くする。会社の生存率は設立1年で40%、5年で15%、10年で6%、20年で0.3%、30年で0.02%・・・。1935年創業の当社は今年で78年目を迎えるが、恐るべき生存率だと自負しています。

組織づくりにおいても全社員が同じ価値観で働き、腐ったミカンはずぐに取り除く。それが当たり前だと思える集団が良い。組織のベクトルを合わせる。いや、合わせさせる必要がある。リーダーの条件とは、①仕事ができる②人間的魅力がある③気力と体力が充実している——の3つが挙げられる。このうち、③気力・体力が一番きつい条件だと思う。わたしはこれが続かなかった。

現状維持は破滅。原理原則は変えずに時代の流れに反応して変化を厭わない。会社も自分も社員もすべて変化しなければ死を意味する。当社は今年から4代目の社長にバトンタッチした。中小企業は3代目が会社を潰すとよく言われる。3代目の時代が変化を求めている時代に突入するからだ。その意味で、これから当社の真価が問われることになる。新しい谷村製作所よ、万歳。(谷村製作所会長)

## 心の指針(方向性)



理事  
坂爪 幸男

北朝鮮が12日午前、人工衛星と称しミサイルを発射した。

国際社会の中止要請を無視し、しかも発射予告期間を延長し、かつミサイルを解体するような素振りをしてなが

ら、国際社会を欺きながら発射した。このような行動は、われわれ一般人には理解できない。

しかも、驚くことには、北朝鮮北西部の東倉里(トンチャンリと読むらしい)の「西海衛星発射場」から発射されたミサイルはフィリピンの東方約300kmの太平洋に2段目のミサイルが落下し、3段目が人工衛星の軌道に乗ったことを、アメリカのミサイル警戒システムが確認した。

このことに関しては、詳しくはわからないのでいろいろ話すことはできないが、一つ思うことがある。なぜ、北朝鮮は、国際社会の反発を招き、国民を飢えさせ、このような事を繰り返すのか、聞くところによると、この技術は大変レベルが高く、自前の技術で人工衛星打ち上げを成功させたのは、ソ連(1957年)、アメリカ(1958年)、フランス(1965年)、日本(1970年)、中国(1970年)、イギリス(1971年)、インド(1980年)、イスラエル(1988年)、イラン(2009年)に次いで世界で10番目だそうである。

お隣の韓国及び日本が驚きとともに、大変な脅威を感じざるを得ないのもうなずける。

でも、これだけ、高い技術力をもっているならば、国際社会から温かく祝福され、国民の生活が豊かで、世界有数の技術立国となり、とても栄えるのではと考えられるが、現実としては、経済は逼迫し、国際社会から孤立していることが悲しい。このように国の方針や、考え方が間違っていると大変なことになるとわれわれに教えてくれているように感じる。

この状況から私たちはいろいろなことを考えさせられ、一歩心の指針を間違えると、大事なものを、失ったり、取り返しのつかないことになったりすると思われます。どんなに立派な技術を持っていても、どんなに素晴らしい実績をもっていても、一瞬にして根底から覆されるこの現代、私たちも肝に銘

じ毎日毎日を反省し、精進をして、あ  
おかつ色々な方に感謝をして生きてい  
かなければと考えさせられます。

(坂爪建鉄工業社長)

## 花咲く散歩道



理事

柳本 幸治

わたしの住む川口市安行は植木で有名である。

安行植木の歴史は400年近く前、関東郡代の伊奈家3代忠治が植木や花の栽培を奨励したのが始まりと言われている。理由は、安行台地は起伏が多く、多様な種類の植木を育てるのに役立つためとか。2002年には、オランダで10年に一度行われる国際園芸博覧会の屋外植木部門で安行植木が金賞、銀賞、銅賞を独占し、国ごとのコンテストでも優秀栄誉賞を受賞した。

某日、冬の日差しを浴びながら、自宅を後に花道への散歩に出た。5分程歩くと、農家直売のシクラメンの花が満開に咲いており、その美しさに見とれて時間が経つのも忘れてしまうほどだった。続いて高台の下にある「安行園芸センター」に至る。ここは植木や花の温室もある地元で1、2番の大きな施設である。この先、登り坂を上って興禅院に立ち寄り、隣にある「花と緑の振興センター」は花よりも植木が多いので、脇道を通り抜けて次の目的地に向かう。

赤山城跡の入口には、植木や草花を販売している「しばみち本店」がある。ここは季節の花が満開に咲いてじっくり鑑賞した。赤山城跡とは、1642年、関東郡代に任命され、荒川や利根川の改修工事などに手腕を揮った伊奈忠治によって築かれた赤山陣屋の遺構。1782～1787年、天明の大

飢饉で人々が苦しむなか、伊奈家12代忠尊は幕府から資金を調達し、全国から買い集めた米を安く売って救済にあたるも、後に郡代を罷免され改易となる。これに伴い、赤山陣屋も廃止され、建物はことごとく取り壊された。

赤山陣屋は本丸と二の丸だけで11万平方メートル、外堀が3000メートル、内堀は1800メートルに及んだ。ここで昼食をとり、一つ先の丘を目指して竹林の道を下り、東京外環道をくぐった後、坂道を登ると一際目を引くのが西福寺の三重塔である。徳川三代将軍家光の息女、千代姫により建立され、釘を全く使わずに組み立てられた。西福寺を過ぎ、花山下から最終目的地、「川口安行道の駅(川口緑化センター樹里安(ジュリアン)植木直売所、あゆみ野農協農産物直売所)」に到着。ここで花と新鮮な野菜を買い求めて帰宅した。

今回の行程の60%は植木畑の中を進むアドベンチャーロードで、植木畑の身頃は3月から7月までが良い。植木センターは季節の花に溢れ、春を思わせるわたしの一押しコースだ。

今日は11.5km、16000歩の道のり。よく歩いた、疲れたなあ。

(富士工業専務)

## 新年ご挨拶



理事

森 明

今年は選挙も終わり文字通り新しい年を迎えることとなりました。特に東京都にあっては都知事も改選され、期待される事もひとしおです。

われわれ鉄骨加工業界も需給改善に向けた政策による、景気浮上を願って止みません。震災復興予算の行使も本格、活発化すれば何がしかの改善に寄与するものと思います。然しながら、

これからのわが業界は、少子化による人口減少を目前にして、何処に活路を見出すかは重大な課題であり、新築の建築鉄骨の市場だけでは、十分な糧は得られないと思われます。

昨年12月に起きた笹子トンネルでの天井崩落事故の原因が老朽化だとすると、すでに提起されている首都高速道路の老朽対策も即刻実施されると同時に、すでに予定され、計画実施中の耐震補強工事に加えて幅広い分野で業界起用が期待されます。組合とその連合組織においてはいち早く、これらに対応する指導指針を示すことが課題であり、従来の耐震補強委員会の進路確認とともに、新しい進路を策定すべきと考えます。

私自身は昨年末すでに後期高齢者になり、皆様方の活動にどの程度のお役にたてるかを案じつつも、組合組織が、若さあふれる勇士に支えられ、さらなる発展を遂げることを願ってやみません。

ただ私の出来ることとして、柳本氏の厚意として催行して頂く釣り同好会には、昨年同様協力させていただきます。みなさま奮っての参加をお待ち申し上げます。

(日本鉄構建設工業会長)

## つながりを強固に



理事

角鹿 茂

リーマン・ショック以降、建築鉄骨業界は長く厳しい環境に置かれたが、昨年のお盆明けごろから仕事の山積みが高くなり、工場稼働率が好転しているようだ。現在、仲間の間ではどこの工場も忙しく、私の工場でも仲間仕事を手伝ってもらっている状況だ。

政権交代後、政府は積極的に景気回

復施策を打ち出し、期待感から国内の雰囲気明るくなるようになってきたように感じる。建築業界では設備投資関連の需要が高まっているようにも感じられ、今年は回復基調に乗った、忙しい1年になりそうな期待感がある。

明るい兆しが見えつつあるが、一方で納期は短く、また、発注量の増加は、自社で加工できる限界を超える量になることが懸念される。このため、ますます横のつながりや仲間との仕事の連携がより重要になっていると思う。昨年、東構協では東京足立鉄骨工業会や鉄工建設業協同組合と合同で研修旅行を行い私も参加したが、重要なのは研修ではなく、同業者と枠組みを超えてコミュニケーションを深める良い機会であったことだと考えている。

私自身、東構協のほか東京足立鉄骨工業会との付き合いも深く、仕事上のかかわりも多い。こうした人のつながりの中で仕事をやり取りし、納期や品質に対する信頼に通じている事例も少なくない。また、次の世代を担う経営者同士でも組合の枠を超えて情報交換し、お互いに学んでいるようだ。中小ファブリーケーターにとって、いまだ厳

しい環境にあるが、仲間同士のつながりを強固なものにすれば、必ず乗り越えて行けると考えている。

(角鹿鉄工社長)

## 知財ビジネスの活用について



理事

廣澤 浩一

海外企業に比べ日本企業は、特許や著作権などをビジネスで活用するのが不得意です。

日本の技術的発想、技術力は世界に誇れるが、それを無形の財産として経営に活かす事が遅れているように思えます。

建築業界においても、新工法や新製品を開発し特許申請はするが、なかなか評価されにくいと同時に、市場に出ない事も多いと言う実態があります。その原因としては、長引く不況に伴い、受注活動の消耗戦、各企業の財務面の問題や、営業戦略面の問題があ

ると思います。例えば中小企業で見ると、新しい技術やノウハウが有りながら、商売に出来ずに倒産する企業も少なくないようです。

最近では、政府側も知的財産戦略に力を入れて、技術提案に対する出資機関を設けたり、大学との共同研究に対する補助金にも積極的に取り組んでいるようですが、まだまだ活用しきれていないのが現状です。政府が建築業界の実態を理解した上で中小企業をサポートし、今後は産・官・学の連携をさらに強化する必要があります。

一方で、東アジアなどの新興国では、日本の技術力・ノウハウを必要としている状況もある中で、大手企業は実績を上げてはいるが、まだまだ中小企業の活躍の場が少ないのです。日本は将来的に人口減少期に入り、今後はさらにグローバル戦略は避けて通れない時代になってきます。世界に向けて、オールジャパンの発想で日本の技術力を世界にアピールし、知的財産ビジネスを活用していくことが今後の日本の国力アップに繋がっていくのではないのでしょうか。

(アイ・テック東京支店副支店長)

## 徒然なるままに

～ 高圧ガス容器を運ぶ ～



協力会会長  
石塚 勲

近年、高圧ガスに係る事故件数が増加しています。そのためか、高圧ガスに関連する取り締りも強化され、特に「高圧ガスの移動（車両でのガスボンベの輸送）」、「高圧ガス容器の保管（ガス容器の置場や置き方）」については厳しく取り締りが行われています。

以前は監督官庁の関係で「都道府県」の担当部署にその権限がありました。今では「警視庁・県警及び消防庁・消防署」にもその権限が及んでいます。

特に警視庁管轄ではここ2～3年、「高圧ガスの移動」についての取り締りを強化し、違反や事故の撲滅に取り組んで頂いています。違反で捕まると30万円以下の罰金が課せられ、さらに運転者だけではなくその雇用主やガスの販売業者にも同等の罰則が課せられることもあります。東構協組合員の皆様におかれましても、高圧ガスはご使用のことと存じます。是非、お取引のあるガス屋さんもしくは協力会のガス扱い会員にお問い合わせ頂き、違反なきようお願い申し上げます。

ところで、最近の「自転車の横暴ぶり」は目に余ります。道路交通法の改正で自転車は車道を通行する（幅3m以上の歩道は通行可ですが）ようになったのは周知のことと思いますが、相変わらず「携帯電話やヘッドホンを使用しながら」や「傘をさしながら」

運転している方が居たり、「一時停止不履行」どころか「信号無視」、「歩道から車道への飛び出し」や「車道での逆走」等々ルールを守らない自転車には非常に困っています。特に私どもは、先述の通り「高圧ガス」という「ある種の危険物」を運ぶこともあり、余計に気を使ってしまいます。東京都では「自転車へのナンバープレート装着の義務付け」も視野に入れた条例化等の協議がなされているようですが、監督官庁においては、自転車を利用する者への「ルール指導」や、時には「取り締り」を行なって頂きたいと思います。

今後、高圧ガス取扱事業者としては、一層保安ルールの順守を徹底し、高圧ガス事故撲滅を目指したいと思えます。組合員の皆様におかれましても、是非、ご協力をお願い申し上げます。

(富士見興業社長)

## 理事役員会報告

### ◆ 1 月理事会 ◆

□ 1 月 18 日、於・アルカディア市ヶ谷□  
2 月に開催する組合員と地場の流通・加工業者を対象とした「建築用鋼材の品質証明ガイドライン」講習会の開催場所を選定した。

協議の結果、「建築用鋼材の品質証明ガイドライン」の講習会は 2 月 21 日、東京都江東区の東京 Y M C A 東陽町ウェルネスセンターで開催。組合員のほか、鉄工建設業協同組合、東京足立鉄骨工業会、地元の鋼材流通・加工業者も参加を呼びかけることとした。

このほか、受注状況や今後の見通しなどを巡って H グレード 3 社が近況を報告した。

### ◆ 2 月理事会 ◆

□ 2 月 21 日、於・東京 Y M C A 東陽町ウェルネスセンター□  
全国 M グレード部会連絡協議会（会長＝堀川勝・杉山建設工業専務）が事業化に取り組んでいる固形エンドタブ溶接技能者技量検定試験の早期実施に向けて全面的にサポートすることを決めた。

当日は、M グレード部会からの報告として谷村忠行部会長（谷村製作所社長）が全国 M グレード部会連絡協議会による固形エンドタブ技量検定試験の実施に向けた活動状況を説明し協力を要請。

理事会はこれを受け、「東京で開催する場合、教育技術委員会（委員長＝中川内伸吉・中川鐵工所社長）を中心に会場の選定や設営などを含めて全面的に協力する」ことを決定した。

### ◆ 3 月理事会 ◆

□ 3 月 15 日、於・組合会議室□  
組合員による今年度の耐震補強工事受注実績が報告され、請負金額の上位 6 社を表彰することを決めた。

東構協では官庁発注の耐震補強工事に携わった組合員を対象に組合から技術的アドバイスを含む支援を受ける代わりに技術指導料として受注金額の 0.5% を徴収している。これは組合にとって事業活動を支える収入源の一つで、そうした貢献をたたえる意味で今年度は徴収金額が 10 万円を超えた会社を表彰する。今回表彰されるのは、前田製作所、松田鋼業、富士工業、飯田製作所、池田工業、中込工業所の上位 6 社。

このほか、「東構塾」の来年度以降の運営について協議。塾生からは継続を望む声が多いことから、第 4 期も引き続き羽石良一塾長（建築鉄骨構造技術支援協会常務理事）のもとで実施することを決め、テーマには従来通り「鉄骨製作の技術」を取り上げるほか、ファブ経営者から実務に関する話を聞く機会を設けることとした。



### ◆ 4 月理事会 ◆

□ 4 月 24 日、於・組合会議室□  
通常総会の準備として新年度の収支予算案を協議したほか、役員改選に備えて新役員体制の人選を確認した。

11 年度収支は、倒産や廃業による組合員 5 社の退会、耐震補強工事の技術指導料の減少、性能評価申請の減少などから赤字決算が見込まれ、緊縮財政を余儀なくされる状況のなか、当初は支出を抑えるため、新年会の開催を見送る方針だったが、「年初のけじめとして必要」との声を受け、再度協議。この結果、例年通り開催する方向で調整を図ることを決めた。

また、役員の改選時期にあたること

から、理事候補者の人選を行い新役員体制案を確認。さらに、式次第、総会後の講演会の講師と演題を報告した。

### ◆ 5 月理事会 ◆

□ 5 月 20 日、於・アルカディア市ヶ谷□  
耐震補強委員会（委員長＝前田茂昭・前田製作所社長）から技術指導料減額の上程を受け、賦課割合を受注金額の 0.3% に引き下げることを決めた。

ここ数年は小中学校の耐震需要が減少傾向にあり、競争激化に伴う単価の下落で採算が悪化しつつあるなか、以前から技術指導料の廃止や賦課割合の引き下げを求める声が多かった。

8 月に開かれた耐震補強委員会では技術指導料の将来的な廃止を見据えた暫定措置として賦課割合を従来の 0.5% から 0.3% に引き下げることで意見を取りまとめ、理事会へ上程。審議の結果、耐震補強委員会の協議内容を妥当とし、今年度は原案通り賦課割合を減額することを決議した。

さらに、技術指導料の今後の取り扱いも検討したが、事業活動を支える収入源の一つでもあることから廃止に慎重な意見もあり、引き続き協議を重ねていく。

### ◆ 6 月理事会 ◆

□ 6 月 26 日、於・組合会議室□  
飯田理事長から提議があり、「積算見積りを有料化」の是非を巡って協議した。

設計事務所や役所の設計見積りや、ゼネコンから求められる見積り協力は「受注につながるケースはほとんどない」。このため、ファブにとって「ただ働き」でしかない見積り業務の有料化は積年の課題。理事会では意見交換し、組合事業として取り組むべきかどうかを協議した。

M グレードは「成約率が 1 割にも満たず、お得意先以外は全て断っている」場合が多いという。一方、H グレードからは、「仕事に結びつくケースも



少なくない。グレードによって事情が異なり、有料化を全社に周知することは難しいのでは」との声が聞かれた。

協議の結果、組合事業とすることには慎重な意見もあり、今回の議論を取りまとめようえ、有料化を要望する声が多いMグレードの部会で再度検討することとした。



#### ◆ 7 月理事会 ◆

□ 7 月 24 日、於・組合会議室□

重点事業の一つに挙げている地元優先発注の陳情活動の進め方について協議した。

東構協では鉄工建設業協同組合、東京足立鉄骨工業会と共同で行政に対して公共工事における地元専門工事業者の優先採用などを求める陳情活動を展開。A～Dの4グループに分けて担当地区を割り振る体制を敷いている。

活動は11年10月の八王子市を最後に休止状態にあり、飯田理事長は再始動を呼びかけた。これを受け、活動の進め方を巡り協議。事前に各グループ内で意見を集約して9月のグループ長会議に持ち寄り、今後の方向性について具体策を定めることとした。

#### ◆ 9 月理事会 ◆

□ 9 月 19 日、於・組合会議室□

引き続き陳情活動について協議。陳情書を一部改訂し、休止状態にある活動を再スタートすることを決めた。

活動再開に向けて7月の理事会と、9月に開かれた陳情活動推進ワーキンググループの会合で今後のスケジュールなどを協議していたが、理事会では陳情活動推進WGが作成した陳情書改訂案の採用を決めた。近日中に改定案を共同推進している他2団体の承認を得た上で、再開に向けて行政の担当窓口や地元議員への働きかけを進めたい考えだ。

#### ◆ 10 月理事会 ◆

□ 10 月 16 日、於・組合会議室□

地元優先発注の陳情活動は一時休止状態にあったが、先月から活動を再スタート、進捗状況の説明では、現在、江東区区議会に陳情書を提出する準備を進めているとの報告があった。

飯田理事長は「日取りなどを折衝中で、近日中にも区議会議長を訪問できそうだと報告。改めて「総力を挙げて順次活動を推進していく」との方針を強調し、今後、その他の区や市町についても陳情の早期実現を目指す。

#### ◆ 11 月理事会 ◆

□ 11 月 20 日、於・組合会議室□

陳情活動をより強力に推進するため、区議会議員から有効な陳情の仕方を学ぶ機会を設けることを決めた。

鉄工建設業協同組合、東京足立鉄骨工業会との連名でこれまでに陳情書を6度にわたり提出したが、具体的な成果が上がっておらず、有効な陳情の仕方を巡って検討を重ねてきた。

飯田理事長はこうした状況を受け、「陳情活動を戦略的に進めるための方途を学ぶ必要がある」と提案。理事会ではこれを全面的に承認し、次回以降の理事会に佐藤信夫・江東区議会議員を招き、陳情書の提出手続きの仕方や区議会での取り扱いについてレクチャーしてもらうことを決めた。

このほか、年刊会報誌、『リポート東構協』の発行について協議。全理事を対象に寄稿文を募り、期限を次回の理事会までと定めた。

#### ◆ 12 月理事会 ◆

□ 12 月 11 日、於・組合会議室□

11月21日に江東区に提出した陳情書への回答が報告され、引き続き活動を強力に推進するとの方針を再確認。飯田理事長は年明け以降、改めて陳情活動推進に力を入れる考えを示した。

当日はまた、今後の活動をより戦略的に進めるため、佐藤信夫・江東区議会議員を招いて有効な陳情の仕方に関する勉強会を実施。佐藤議長からは区議会での陳情書の取り扱いや地元元請業者への発注状況について説明があり、地元専門工事業者を採用した元請業者に与えられる評価点の加点などのインセンティブについて意見交換した。

## 平成 24 年度通常総会開く

飯田理事長をはじめ全役員が留任

当組合は12年5月29日、千代田区のアルカディア市ヶ谷で第26回通常総会を開催した。

総会では全議案を滞りなく可決した。また、当日は任期満了に伴

う役員改選が行われ、飯田理事長をはじめとする全役員が留任することとなった。

さらに、総会後には講演会が行われ、加藤哲夫・東構協事務局長が講師となり、不良鉄骨問題と業界内外の対策を軸に建築鉄骨の歴史を振り返った。



# 交流・研修事業を積極的に推進し次世代担う — 青年経営者委員会 —

## ◆中国・大連の工場を視察

青年経営者委員会の有志一行は6月13～15日の3日間、研修事業として中国東北部の大連市を訪れ、鉄骨事業へ本格的に進出する「大連中集物流装備有限公司(DCLE)」を視察した。

同社は世界シェア第1位のコンテナメーカー、中国国際海運集装箱(集団)股份有限公司(CIMC)の子会社で、このほど鉄骨製作工場を新設。コンテナ製造の技術を生かして建築鉄骨事業に進出する考え。溶接技能者や検査技術者の育成に注力している。

一行は、コンテナの製造現場や鉄骨工場を見学。ビルトH形鋼の生産ラインなど設備も整い、別棟の溶接練習場ではJIS溶接資格試験に備えて特訓中の技能者の姿もみられた。参加者から、「清掃が行き届き、安全衛生管理

がしっかりできている」、「溶接技量は思った以上」などの感想が聞かれた。



## ◆国際フォーラムで総会

青年経営者委員会は6月29日、東京都千代田区の東京国際フォーラムで通常総会を開催した。

吉岡幹事長は「今まさに正念場を迎え、トップは決断を強いられている。先読みの難しい状況だが、他県の同業者など多くの方々と交流することで見えてくるものがある。お互いに情報交換をし、切磋琢磨して業界を盛り上げていこう」と述べた。また、総会終了

後には全体会議を開き、各社の近況を報告し合った。

## ◆栃木県青年部と交流会

青年経営者委員会と栃木県鉄骨業組合・青年経営者協議会は9月1日、都内で合同納涼会を開催し、両県から16名が参加した。両県青年部による交流行事の企画は今回が初めて。

当日は、隅田川沿いを周遊する屋形船を貸し切り、お互いに公私にわたる近況を報告し合うなど話にも花が咲き、一夕の宴に日頃の疲れを忘れて親睦を深めた。



# 東 構 塾

## 東構塾第4期がスタート 飯田理事長、羽石塾長が講義

東構塾の第4期が9月29日からスタート。組合会議室で開かれた今期第1回目の東構塾では、飯田歳樹理事長が経営に関する講話を、羽石塾長が業界の抱える諸問題をテーマに講義した。

飯田理事長は業界を取り巻く環境にふれ、「ファブは長引く需要低迷で厳しい経営のかじ取りを強いられているが、建築鉄骨業を含む建設産業は斜陽産業ではない」と強調。その上で、経営安定化の条件として「7割操業

でも決算時の売上高が損益分岐点を下回らない運営が肝要だ」と語った。

続く羽石塾長の講義では、「技術図書を読み解き、様々な問題点について再確認し、業務遂行上の教訓や指針を得る一助としたい」とし、塾生らに「自己の立ち位置を客観的に把握できる広い視野を持ち、常に問題意識をもって臨んでほしい」と訴えた。

## 大林組技術研究所を見学 制震や省エネの先端技術を学ぶ

東構塾の一行13名は4月27日、東京都清瀬市の大林組技術研究所を見学し、世界初のスーパーアクティブ制震システムの採用や最高水準の環境性能効率の達成などにみられる最先端の建設技術にふれた。

10年9月に竣工した本館「テクノステーション」は大林組の最新技術が多数採用されている。

一行は縮小模型でスーパーアクティブ制御システム「ラピュタ2D」の制震効果を確認した後、仕組みや地震時の働き方を学んだ。

続いて、先進的な環境配慮の技術を体感したほか、「オープンラボ」、「ダイナミックス実験棟」、「環境工学実験棟」、「構造実験棟」など主要な研究実験棟を見て回った。



## 伊豆～清水で3団体合同研修会を開催 —東構協・東足会・鉄工建—

東構協と東京足立鉄骨工業会（会長＝金本茂・日伸鉄工建設社長、略称＝東足会）、鉄工建設業協同組合（理事長＝國谷七三夫・國谷製作所社長、略称＝鉄工建）の都内鉄構3団体は、10月14、15日の2日間、約20名を集め、「3団体合同研修旅行」を開催した。

同研修旅行は団体間の交流と情報交換の活性化し、お互いの“絆”を深めることをメインテーマに企画さ

れたもので、昨年に引き続き今回で2回目。目的地は伊豆半島をメインに、研修会は静岡県清水市のアイ・テック清水本社を訪れ、工場や設備などを見学した。

また、東構協の森明理事（日本鉄構建設工業会長）が余興と

してサックスでジャズやオールディズなど数曲を演奏し、夜の交流会に花を添えた。



## 地区会員名簿

### 東地区 (22社) 地区長 富士工業(株) 柳本 幸治

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	那須ストラクチャー工業 株式会社	H	9	株式会社 中川鐵工所	M	17	三進建鉄 有限会社	R
2	株式会社 アイ・テック	H	10	中央鋼材 株式会社	M	18	株式会社 市川スチールエンジニアリング	R
3	株式会社 飯田製作所	M	11	中央ビルト工業 株式会社	R	19	株式会社 コイワ	R
4	株式会社 中込工業所	M	12	鈴木鉄工建設 株式会社	R	20	株式会社 長谷川工業	R
5	株式会社 前田製作所	M	13	有限会社 高市工業	R	21	株式会社 奥村鉄構	未
6	吉岡工業 株式会社	M	14	株式会社 角鹿鉄工	R	22	有限会社 矢萩鉄工	未
7	株式会社 谷村製作所	M	15	株式会社 利根川鉄工所	R			
8	富士工業 株式会社	M	16	林鉄工 株式会社	R			

### 中地区 (12社) 地区長 (有) 金谷鉄工所 金谷 義昭

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	池田鉄工 株式会社	M	5	有限会社 修和鉄工	M	9	小久保鉄工 株式会社	R
2	松田鋼業 株式会社	M	6	井上鉄工 株式会社	M	10	有限会社 大橋鉄工所	未
3	東京建鉄 株式会社	M	7	株式会社 三侑鉄工	M	11	株式会社 帝都建工	未
4	株式会社 鎌建工業	M	8	有限会社 金谷鉄工所	R	12	株式会社 テッコー	未

### 西地区 (19社) 地区長 (有) 坂爪建鉄工業 坂爪 幸男

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	叶産業 株式会社	H	8	有限会社 坂爪建鉄工業	M	15	有限会社 山上建設工業	R
2	川岸工業 株式会社	H	9	有限会社 天野鉄工所	R	16	株式会社 小室鉄建	R
3	株式会社 矢嶋	H	10	株式会社 一本木鉄工	R	17	株式会社 高水鐵工	R
4	小島工業 株式会社	M	11	株式会社 酒多鉄工所	R	18	有限会社 藤本鉄工所	R
5	日本鉄構建設工業 株式会社	M	12	島崎工業 株式会社	R	19	株式会社 敏鉄工	未
6	井戸鉄建 株式会社	M	13	有限会社 中央製作所	R			
7	株式会社 かしや建設工業	M	14	株式会社 河村鉄工所	R			

東京鉄構工業協同組合協力会員名簿

Table with columns: 会社名, 〒, 住所, TEL, FAX, E-mail, 代表者担当者, 役職, 業種・取扱商品. Lists various member companies like 富士見興業(株), アマダマシンツール, 大同生命保険(株), etc.

編集後記

2004年10月発生した中越地震では首都圏は震度3で建築物には全く被害はありませんでした。しかし、都心の超高層のエレベーターが重大なダメージを受けていることが判明しました。

たり大きく揺れました。幸い建築物の骨組みはダメージを受けませんでしたが、長周期地震動の怖さを初めて経験しました。

これまで日本では超高層建築物の設計で長周期地震動を想定した設計はされてきませんでした。しかし、中越地震や東日本地震では固有周期の長い超高層建築物が長周期地震動に共振する現象が起こることが判明しました。

昨年3月、(独立)防災科学研究所が『大地震を受ける超高層建物の被害様相とその対策』を発表しました。このレポートによると、長周期地震動で超高層建物の梁端部が長時間繰返し

応力を受けた場合、ウェブボルト接合・梁フランジ現場溶接接合方式と、ブラケット工場溶接接合方式を実物実験と比較検証した結果、現場溶接接合は接合強度比が工場溶接接合の場合より小さく、変形性能に対して相対的に厳しい条件となり、下端梁フランジが破断する恐れがあることが判明しました。

(事務局長 加藤哲夫)